

まいづる  
元氣人

## 環境に対する意識をつなげたい

まいづるクリーンキャンペーン  
実行委員会委員長 門中雄一郎さん

今年で設立20周年を迎える「まいづるクリーンキャンペーン」実行委員会。イベントが多くなる夏の時期を前に、毎年7月に舞鶴市内全域で行われるクリーンキャンペーンでは、こみ一つない「美しいまち舞鶴」を目指した活動が展開されています。活動の様子や思いについて、委員長の門中雄一郎さんにお話を伺いました。

## 実行委員会設立20周年

市内の14団体が構成される「まいづるクリーンキャンペーン」実行委員会は、平成9年2月に設立。今年で20周年を迎える。一斉清掃を市民に呼び掛け、環境美化への意識啓発で散乱ごみを無くし、きれいな住環境の実現を目指すのが委員会の目的。

実行委員長は、舞鶴青年会議所の理事長が代々務め、2年が任期。現在の委員長の門中さんは「青年会議所としても全員参加という気持ちで毎年やっています。私も青年会議所に入会してからずっと参加し、7月はクリーンキャンペーンの一斉清掃という認識が根付いています」と話す。

## 7月はクリーンキャンペーン

7月は海水浴やちやたまつりの開催などがあり、夏の観光シーズンでたくさんの方が舞鶴を訪れる時期。また、大型クルーズ客船の入港や高速道路の開通もあり、国内のほか国外からの観光客も増えた。この時期だから



▲クリーン舞鶴ポイ

こそ、みんなでまちをきれいにしておくことは大事なことです。クリーンキャンペーンは、ただごみを拾うことだけではなく、多くの市民が自分の手で拾い、ごみを捨てない人を一人でも増やしていくことに大きな意味がある。毎年多くの子ども達が活動に参加してくれます。参加して、活動の意味や大事さを理解してもらうことは非常に重要です。意識が受け継がれ広まっていけば、参加する人や舞鶴に住んでいる人、観光などで訪れる人にも伝わっていくと思います」と門中さん。

## 参加する人も楽しんで

ビーチコーミングは、海岸などの清掃活動を行うとともに、打ち上げられた漂着物を集めて観察したり、加工して作品にしたりする取り組み。「子ども達が率先して取り組んでいる様子を見ると、参加する大人も学ばせてもらうことが数多くあります。家族で参加されることで、子ども達の情操教育にも良い影響を与えているのではないかと思います」と活動を振り返る。

平成21年から実施しているビーチコーミングは、環境美化意識の啓発のために実施しているイベントで、子ども達の参加が多い。「きれいにしましょう」と呼びかけるだけでは不十分。参加しやすい、また楽しんでもらえるように、地引き網体験などを盛り込んで工夫しています。その中から、いろんなことを学んでもらいたい。」

## 舞鶴をきれいなまちに

「実行委員長として、市内のほかの環境団体と活動を共にすることもあり、まちをきれいにするシステムや取り組みなどを学ぶ機会があります。例えば、ペットボトルのキャップを集め、ワクチンに交換するエコキャップ活動などもそうです。このような活動に参加することで、自分自身の環境に対する意識も高まっています。」

今年の一斉清掃日は、7月3日。7月いっぱいこのキャンペーン期間中には毎年約8,000人が参加されています。「きれいなまちにした」という思いは舞鶴全体へ広がっています。

まいづる  
花図鑑

vol. 119

南アフリカ原産。欧州で改良され、明治中期に観賞用として渡来。今は庭に植えられるほか、人家近くの林縁などに野生化し群落をつくっている多年草。高さは80cm程度になる。褐色の繊維に覆われた径2cmほどの球茎から剣状の葉を束生し、走行枝を出して繁殖する。夏、葉より長い2〜3本に枝分かれした花茎を伸ばし、径3cm程度の朱赤色の花を穂状に付け、下から順に開く。名前の由来は、母種ヒオウギスイセンよりも小さいことから。

【協力】瓜生勝朗  
市文化財保護委員(植物分野)



ヒメヒオウギズイセン

(アヤメ科)

見ごろ 7~8月頃

